

## 4 月度木曜例会

4 月度木曜例会(11/04/07)

本日のスピーカーは Slovenia 人の Klara さん。2年前の6月に引き続き4度目のご登場です。先回はいきなり“皆さん、うたがきって言葉知っていますか？”から始まり、なんと神楽舞について日本人でもあまり知らない興味深い内容を“若いスロバニアの女性”が説明してくれ、一同あつげにとられたものでした。今回のテーマは In the milieu of experimental and collaborative 1960's Sogetsu Art Center--Takemitsu Toru's film music for Otoshiana です。えっ！またまた何を言い出すの？岡田英次、岸田今日子 演じる“砂の女”もこの手の組み合わせではなかったのかな、内容いまだに鮮明に覚えているけれどと言う方、多かつたのではありませんか？さてどんな話が飛び出すやら。



In the presentation I will talk about the Sogetu Art Center movement and the film Otoshiana emphasizing music formation.

と言うことです。60年代という時代背景での日本のアバンギャルド音楽とダンス、アニメ、映画、グラフィックアート、建築、文学それぞれが協調して取り組む作業の場、草月文化会館の役割を解説後、そこから発せられたひとつの映画“おとし穴”を鑑賞しながらそれぞれのコラボについて納得しやすく説明してくれました。

せつかくの彼女の指摘です。60年代はどのような時代だったかを振り返ってみましょう。ベトナム戦争(第2次インドシナ戦争)スタート、そして泥沼化、ビートルズ、ヒッピー、反戦運動、中国では文革、日本は高度成長期、電化製品普及、東海道新幹線、エネルギー革命石炭から石油へ、映画の黄金時代、アメリカテレビ映画、等々でしたね。Re-evaluate の時代でもあります。

本日のキーパーソン3人を最初に紹介しましょう。

勅使河原宏、阿部公房、武満徹です。

### 1) 勅使河原宏(1927年—2001年)



華道三大流派と呼ばれるうちのひとつ、草月流三代目家元、映画監督 ATG 初の日本映画の監督であり、安部公房の作品群ではドキュメンタリータッチを基本にしたシュールリアリズム溢れる映像美で世界的にも評価された。1962 年安部公房脚本のテレビドラマ煉獄を映画化した自身初の長編劇映画「おとし穴」を監督、これがアート・シアター・ギルド初の日本映画作となった。音楽：一柳慧、高橋悠治 音楽監督：武満徹。

そして草月会館とは

In 1959, soon after the old Sogetsu Kaikan was completed, the Sogetsu Art Center was founded and Hiroshi became the director. The aim of the center was to offer a place for artists from various genres or fields to gather to create, to show, and to criticize each other without any restrictions. The system

in which the artist produces his/her own works was thought to be most innovative, and it was very useful for the artists to protect themselves and their creativity from commercialism. The activities of the center were:

1. Sogetsu Music In : Experimental Jazz concerts in 1960s.
2. Sogetsu Contemporary Series: Recitals of new pieces of contemporary music.
3. Sogetsu Cinematheque: Shows of animation or experimental image films. The activities were especially active in the late 60s.

These were the main activities, but a number of collaborations were realized by the exchange of ideas. Also, many American forefront arts were introduced at the center. The events by John Cage or David Tudor gave a strong impression.



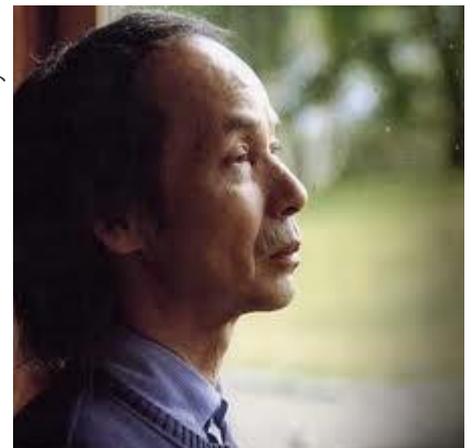
The Sogetsu Kaikan, the building of Sogetsu Foundation Headquarters, is the home of Sogetsu Ikebana and other creative activities beyond each genre. Designed by the world-renowned architect, Kenzo Tange, it was completed in 1977 and received the Building Contractors Society Award in 1979.

2) 安部 公房、(1924 年— 1993 年)、日本の小説家、劇作家、演出家。



戦後の復興期にさまざまな芸術運動に積極的に参加し、ルポルタージュの方法を身につけるなど作品の幅を広げ、三島由紀夫らとともに第二次戦後派の作家とされた。作品は海外でも高く評価され、30ヶ国以上で翻訳出版されている。主要作品は、小説に『壁 - S・カルマ氏の犯罪』(この短編で芥川賞を受賞)『砂の女』(読売文学賞受賞)『他人の顔』『燃えつきた地図』『箱男』『密会』など、戯曲に『友達』『榎本武揚』『棒になった男』『幽霊はここにいる』などがある。劇団「安部公房スタジオ」を立ちあげて俳優の養成にとりくみ、自身の演出による舞台でも国際的な評価を受けた。晩年はノーベル文学賞の候補と目された。

3) 武満 徹(、1930 年 - 1996 年)は、現代音楽の分野において世界的にその名を知られ、日本を代表する作曲家である。エッセイストとしても知られ、小説を手がけたこともある。武満は多くの映画音楽を手がけているが、それらの仕事の中で普段は使い慣れない楽器や音響技術などを実験・試行する場としている。武満自身、無類の映画好きであることもよく知られ、映画に限らず演劇、テレビ番組の音楽も手がけた。日本の楽器、琵琶、尺八等も組み合わせ また文化大使として世界的に活躍した。





ここでプリペアド・ピアノの説明です。「おとし穴」で使われ彼女が映画を見ながら場面場面で解説してくれました。

1台のチェンバロ、2台のプリペアド・ピアノが使われた。プリペアド・ピアノとは作曲家ジョン・ケージが1940年に「発明」したものであり、グランドピアノの弦に、ゴム、金属、木などを挟んだり乗せたりして音色を打楽器的な響きに変えたものをいう。このようにすることで、ピアノ本来の音色が失われ、金属的な音や雑

音の多い独特な音を得られるほか、多くはその音の高さも幾分不明瞭になったり、元の高さとは異なる音高となったりする。

質疑応答、感想では

シュールレアリズムって？

「シュルレアエル(シュレーール)」(仏: *surréal*; 超現実)と「イズム」(仏: *-isme*; 主義)からなる語である超現実とは「現実を超越した非現実」という意味に誤解されがちであるが、実際は「過剰なまでに現実」というような意味である。個人の意識よりも、無意識や集団の意識、夢、偶然等を重視した。

映画は映像があくまでも主で音楽は従と思っていたのですが？ ええ、場面によってはより重要な役割だと思いますよ。

なぜ Klara さんはこの様な領域に入っているのでしょうか？ 将来どうしようって思っているのでしょうか？ 日本と言う大きなテーマ、その中で分野の広い芸術、さらにその中から現代音楽の武満徹を選び、そのコラボとして勅使河原にたどり着き、映画音楽を我々に解説する。普通の日本人でもなかなかなじみの薄い領域です。勅使河原宏、武満徹、阿部公房それぞれの人に再度興味を持ち直しますが、それよりもっと興味を持つ人は Klara さんと言う人です。スロバニアから日本に来てなぜこの様な研究に嵌まり実践しているのか。幼少時代どのような環境で育ち、どのように考え方が変化して行ったのか考えるほど分からなくなります。Klara さんの出身地 Ilirska Bistrica がどのような所か調べてみました。人口200万、面積は日本の四国と同じくらいのスロバニア、首都 Lubliana でも茨木市と同じ人口27万人、その国の南西部にあります。人口は14千人で Javorniki 山の麓町、風光明媚な所でした。そんな人がどうして？



Why I study about things like *Otoshiana*, it to know more about your country, people, culture, and transfer that later to Slovenia. To make bridges between Japan and Slovenia. So we can learn more from each other. Believe it or not, we all had a period in the arts when the films like *Otoshiana* were made.

彼女からの我々に対する回答が寄せられました。私たちももっともっとスロバニアについて理解を深めましょう。